1　チーム名 高等部　自立活動	
2　メンバー	高等部教員８名
3　チームのテーマ **これがあればできる！！**	
4　対象児童生徒に願う主体的な姿 教材・教具を活用することで、「自分の力を発揮してできた」と満足感を感じ笑顔になる	

5　研究実践の内容

本研究グループは一人（もしくは一学級）につき一事例を担当して実践を行ってきた。このまとめでは、その中の二事例を紹介する。

事例①

（１）対象生徒の実態

肢体不自由と知的障がいを合わせ有する１学年の男子。

・今、できる：教師が食べ物をのせたスプーンに自分で手を伸ばし、スプーンを持って食べること

・今、むずかしい：①スプーンを持つ行動を持続し、自分で食べ進めること…区分５－（３）
②周りの環境が気になり、食べることに集中すること…区分２－（１）

・目標：食事場面において、自分のペースで継続的に食べることができる。

（２）生徒の姿の変容と使用教材

Ｓくんハウスの内部

↑いもむし　　↑Ａくんハウス

材料	マジックテープ、健康用品のチューブ（108 円）	段ボール
目的	スプーンが手から離れないように固定。本人にとって抵抗の少ない素材を使用。	食事に集中できるように、周囲の刺激を遮断する。
経過	プラスチック素材の補助具に対して感覚的な抵抗が強かったため、この補助具に変更⇒若干の抵抗はあるが、スプーンを離さない⇒スプーンで食べ物をすくうことが困難であるため、フォークに替えると、自ら食べ物を選び、すくって食べることができた。	落ち着いて食べることができるようになった。

（３）成果と課題

・成果…補助具を使うことで、持つ行動が習慣化した。それにより、食べる量が増え、自分で食べる喜びを感じることができた。

・課題（今後の指導・支援）…家庭では保護者が食べさせている状態であるため、家庭に般化させたい。保護者が「やってみたい」と思えるように、生徒の成長している姿を共有する。

事例②

（１）対象生徒の実態

知的障がいと自閉症スペクトラムを合わせ有する２学年の男子。

・今、できる：自分の知っている身振りサインで欲しい物品を伝えること。

・今、むずかしい：サインを知らない相手に対して、要求を伝えたり、サインがない（サインをしらない）物や事柄を相手に伝えること…区分⑥－（２）

・目標：自分の欲しい物品について、絵カードを渡すなど、誰に対しても伝わりやすい方法で教師に要求をすることができる。

（２）生徒の姿の変容と使用教材

材料	絵カード（文字つき）、文ボード、絵カードを収納するファイル（ひもつき）、マジックテープ
目的	絵カードを組み合わせて二語文を構成し、相手に渡すことで、自分の要求を適切に伝える。
カード	シャボン玉　みどり（その他の色も）　画用紙　風船 はし　はしぶくろ　体育館　ペン　iPad　くすぐり ください　いってきます　一緒に来てください ※網掛けは実際に対象生徒が使用したカード

・導入前：欲しい物品があると、勝手に棚や教師のロッカーを開けて取る行動が見られた。また、休み時間をうまく過ごすことができず、「次の授業を始めてほしい」と何度も教師に要求していた。

・導入後：①最初は物品名のカードのみを文ボードに貼りつけて教師に渡した。②「シャボン玉」「ください」など、物品のカードと「ください」のカードを文ボードに並べて、２語文で要求をすることができるようになった。③校内実習では担当の教員に材料を求めることができ、休み時間以外にも要求することができた。また、要求する相手も担任のほか、学級の教師や同じ学習グループの教師へと拡がった。

（３）成果と課題

・成果…自分の思いを伝えられるツールがあることで、ルールを守り、教師に対して色々なことを伝えようとする意欲が高まった。イラスト＋文字という誰にでも分かりやすいツールを用いることで、学級の教師以外にも自分の思いが伝えられる場面が増えた。絵カードが休み時間の過ごし方の選択肢としても機能したことで、自分で選択して要求し、休み時間を過ごすことができるようになってきた。

・課題…絵カードにない事柄を教師に伝えたいときに、伝わりやすい方法（磁気ボード等に書く、iPad に入力するなど）を選択することを学習する必要がある。また、そのために語彙を増やす必要がある。さらに、対象生徒は療育機関において、絵カード交換式コミュニケーションシステム（PECS）について学習したことがあるため、学校場面における絵カードを用いた要求の導入が容易だったと思われる。他の生徒に導入する際にはさらに丁寧な指導が求められる。

全体を通して（メンバーから出された意見）

教材を作った理由…「教師の支援がなくても、あるいは少なくても、生徒が自分で活動に取り組むことができるようにするため」「自分でできたという達成感が自信となって、生徒の意欲や積極性などの心理的な成長が期待できると考えた」

教材を作成・修正するにあたって重視していること…「生徒の目標に向かっているかどうか」「作成の時点で生徒の気持ちや思いが十分反映されているか」「使い方が分かりやすく、現時点で生徒がもっている力を活用できること」「その教材に固執せず、他の可能性も探る」「うまくいかなかった理由はどこにあったのかを客観的に（必要に応じてビデオを撮影して）分析する」